スターリニズム文化の形成過程とロシア・ナショナリズムの関係についての基礎的研究

On the Process of the formation of Stalinist Culture and Russian Nationalism in 1930s' USSR

プロジェクト代表者：野中進（教養学部・助教授）
NONAKA Susumu (Faculty of Liberal Arts, Associate Professor)

1 第一回全ソ作家同盟（1934）資料の検討

ソ連文化の形成史において重要な役割を果した1934年の第一回全ソ作家同盟に関する一次資料の検討を通じて、当時いかにして「ソ連独自の文化・文学」の形成が目指されていたかを明らかにした。成果としては、2005 年 12 月 10 日プーシキン・プロジェクト（於早稲田大学文学部）における口頭報告「第 1 回全ソ作家大会（1934）について（続き）」がある。以下のサイトを参照のこと。（http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Studio/4616/jar/index.htm）

2 ヴィクトル・シクロフスキーの批評理論の検討

ソ連文学において独自な地歩を築いた批評家ヴィクトル・シクロフスキーの批評理論の検討を行い、ロシア・フォルマリズムの祖としても知られる彼の立場がソ連文学史のなかでどのような位置を占めるか、先行研究に広く当たりつつ、再検討を行った。その成果は 2005 年 10 月 9 日日本ロシア文学会全国大会（於早稲田大学文学部）における口頭報告「シクロフスキーにおける再認の概念」およびその報告要旨がある。『ロシア語ロシア文学研究』第38号（2006年10月発行、所収予定）および以下のサイトを参照のこと。（http://wwwsoc.nii.ac.jp/robun/katsudo_index.html）

3 アンドレイ・プラトーノフの文学作品の分析

ソ連文学においてきわめて特異な文学世界を築いた小説家アンドレイ・プラトーノフの作品を分析し、いわゆる社会主義リアリズムとは対極的な位置にある彼の小説世界の技法的・思想的特徴を明らかにした。その成果は以下の三点である。

(a) 書評「最近のプラトーノフ研究から：作家論の方法」、『ロシア語ロシア文学研究』第38号（2006年10月発行、所収予定）。

(b) 論文「『チェヴェングール』における直喩の反復（問題の設定）」（原文はロシア語）、論集『アンドレイ・プラトーノフの「哲学者の国」：創作の諸問題』、第6集、モスクワ、世界文学研究所、2005年、335－344ページ。

(c) 口頭報告「プラトーノフの文体的原理としてのカテゴリーミステイクについて（『土台穴』）」（原文はロシア語）、ロシア文学研究所主催「プラトーノフ国際セミナール」、ペテルブルグ、2006年10月2、3日。

4 総括とその後の研究展開

以上、総合研究機構研究プロジェクト研究関連では5点の成果を挙げた。その後、このテーマをより個別化・具体化して、ロシア・フォルマリズム研究に取り組んでいる。「ロシア・フォルマリズム再考―新しいソ連文化研究の枠組における総合の試み」（平成18－19年度基盤研究（C）、研究代表者：野中進）、および「ロシア・フォルマリズムの理論的発展と1920年代ソ連文学の論争状況の相関関係についての研究」（平成18年度総合研究機構研究プロジェクト）を取得済である。